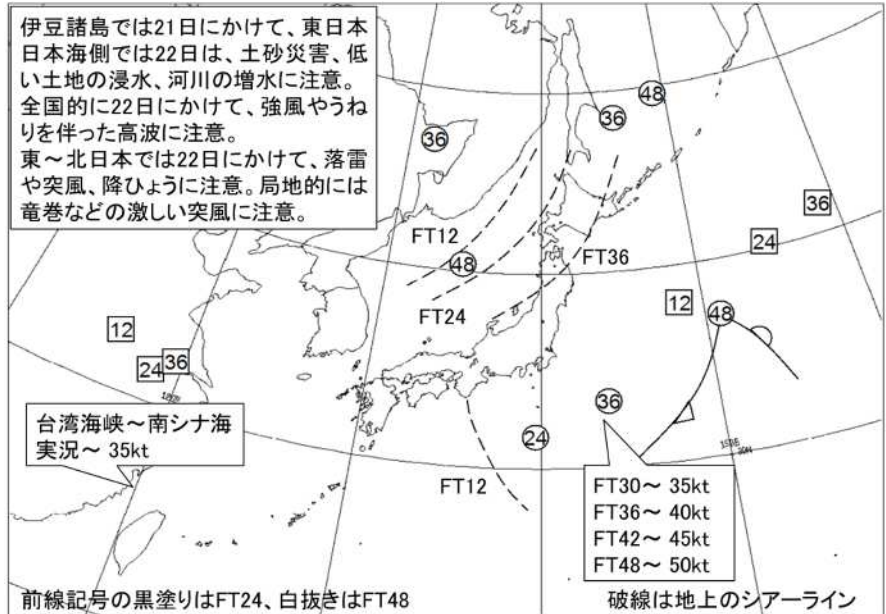


### 1. 実況上の着目点

- ① 日本海に高気圧があって、東南東に移動。高気圧縁辺の湿った空気の流入で、南西諸島では局地的に強い雨を解析。高気圧の縁辺では気圧の傾きが大きくなっており、南西諸島と北日本では、やや強い風の吹いている所があり、南西諸島と西～東日本太平洋側、北日本では、波が高くしけとなっている所がある。
- ② 東海道沖に地上のシアーラインがのびている。東海道沖や伊豆諸島周辺では1時間に5mm前後の降水を解析。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②のシアーラインは、20日朝にかけて東海道沖を西進。20日夜には東海道沖で低気圧が発生し、22日にかけて発達しながら日本の東を北東進。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。伊豆諸島では21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 500hPa 5400～5460mのトラフに対応し、20日朝までに日本海で地上のシアーラインが形成し、21日朝にかけて東～北日本を通過する。シアーラインに向かって下層暖湿気が流入し、上空寒気の影響が加わり、大気の状態が不安定となり、雷を伴って強い雨の降る所がある。北日本では21日にかけて、東日本日本海側では21日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 20日朝までに日本の東で高気圧が顕在化、21日にかけて日本のはるか東に移動する。高気圧の縁辺では気圧の傾きが大きくなり、東よりの風による風浪とうねりにより、波が高くなりしけとなる所がある。南西諸島と西～東日本太平洋側では21日にかけて、うねりを伴った高波に注意。
- ④ 500hPa 5340～5400mのトラフに対応し、21日夜までに日本海で低気圧が発生。低気圧は発達しながら北東進し、22日に北日本を通過する。また、シアーラインが22日に東～北日本を通過する。シアーラインや低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。22日は、東日本日本海側では土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、東～北日本では落雷や突風、降ひょう、全国的に強風や高波に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、関東・東海・近畿・沖縄3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

### 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。